

一般社団法人日本癌治療学会

PAL ASCO2016 派遣報告

特定非営利活動法人キュアサルコーマ

理事長 大西 啓之

---

## はじめに

日本癌治療学会(JSCO)のASCO2015派遣で昨年に引き続き2年連続で、参加させていただきました。今年も、派遣が決まっていたので、事前準備にあまり時間を取られず、余裕をもって臨むことができました。特に、アメリカの患者会との交流や今年初めて2名参加する患者会仲間のアテンド、そして肉腫(サルコーマ)の最新治療情報収集をしようとASCOに臨みました。



昨年、このJSCOの派遣プログラムに参加させていただいて、日本を含む医師達の勉強熱心さ、探究心の強さ、アメリカにおける患者会活動の規模の大きさなどが実感できました。

また、日本でもなかなかお会いできないような先生達とも、交流することができましたし、ASCOに来れば、現在の癌治療における最新情報がいち早く入手できることもわかりました。

2年連続派遣という意味を心に留め、来年以降にも繋がるプログラムになるよう、尽力したいと思いました。

## 渡航準備

JSCO事務局から12月下旬にメールでご連絡をいただき、1年目に作成したASCO派遣報告書のJSCOホームページへの掲載同意と、今回初めて参加される方の現地でのアテンドおよび質問対応を依頼されました。



1月に入り、自分でまずASCO2016のwebサイトから参加登録し、registration IDを取得しました。その後、安いうちにと、航空券とホテルの予約をしました。(それでもホテルは、1泊200ドル近くかかり、6泊したので、約1,200ドルとなりました。)2月下旬には、今回初めて参加される方、2名の名前がわかりました。偶然、患者会同士の集まりなどで、顔見知りの方たちだったので早速連絡を取り、4人でSNSでグループを作り、出発まで各自のホテルやスケジュールなどの情報交換をしました。

3月には、ASCOのスカラシップ応募のため、英文アプリケーションを提出しましたが、今年は応募者多数のため獲得することはできませんでした。JSCOからの派遣補助金は、3月中旬に振り込まれました。

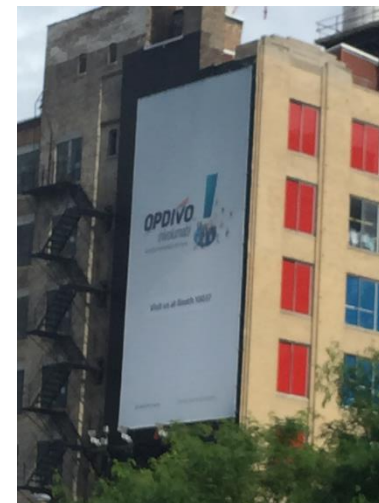
昨年同様、ASCOからは毎週のようにメールが入り、プログラムのチェックなどをしました。出発の2週間くらい前には、参加証や申し込んでいた有料セッションのチケットなどが自宅に郵送されてきて、いよいよ出発という気分になりました。

## シカゴ到着

成田からDELTA便で、デトロイト経由でシカゴ・オヘア国際空港に到着。昨年同様、オヘア国際空港からは、ブルーラインに乗り、ダウンタウンのホテルに夕方チェックインしました。同じ派遣メンバーの人と日本から来られていた先生と3人でシカゴ名物のピザで夕食をとりました。

翌日のASCO初日は、午後からスタートですが、毎年ASCOに合わせて、シカゴ市内のホテルで、午前中開催されるSARC (Sarcoma Alliance for Research through Collaboration) に昨年に引き続き出席し、旧知のアメリカの先生達や日本から来ていた先生にもお会いすることができました。

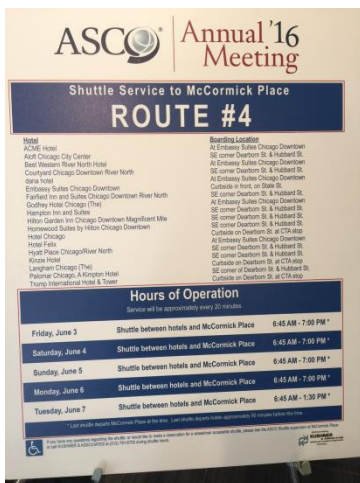
昨年から過熱していた免疫チェックポイント阻害剤OPDIVOの広告を、空港や市内のいたるところで見かけたのが、特に印象的でした。



# マコーミック・プレイス

会場のマコーミックプレイスへは、シカゴ市内のホテルとバスで結ばれていて、いろいろなルートがあります。朝、ホテル前のバス乗り場は、いつも多くの人が並んでいます。早目に行かないと最初のセッションに間に合わなくなることもあるので、気をつけてください。初日は、会場入口近くの受付で、参加証のホルダーやプログラムなどを受け取り、PALラウンジへ。会場内には、多くのボランティアの案内係がいて、安心です。

アプリのiPlannerも役に立ちましたが、受け取った資料では、Annual Meeting Programとそれに附属のスケジュール表が非常に役立ちました。

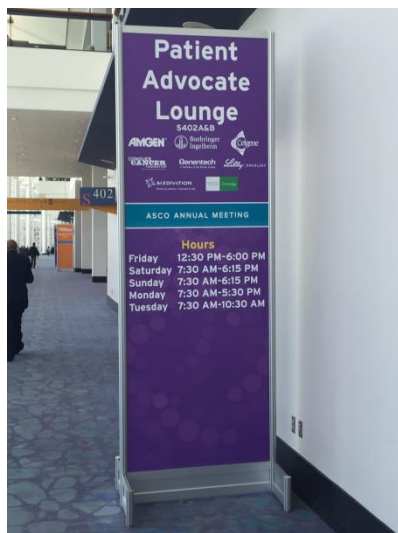


## PAL ラウンジと iPlanner

ASCOのPALラウンジに入ると、昨年同様入口に、2人の女性スタッフがいて迎え入れてくれました。ゆったりとしたソファ、飲み物や軽食なども用意され、くつろげる空間になっています。

今年のPALラウンジでは、去年は会えなかったアメリカの肉腫患者会の人たちと交流が持て、非常に有意義なものになりました。

スケジュールリングアプリのiPlannerは、プログラムの検索や自分のスケジュール確認も簡単にできる便利なツールです。今年はさらにバージョンアップしていて、セッションでの質問をこのアプリでできるようになっていました。

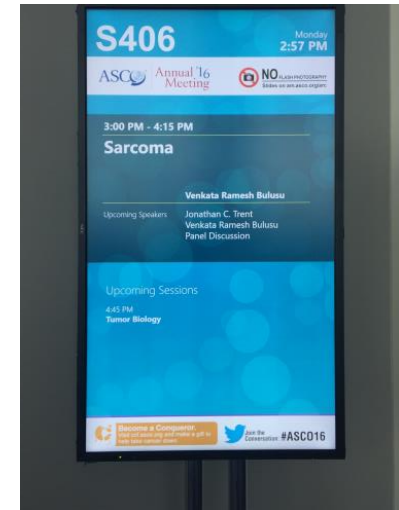


## ASCOセッション

昨年に引き続き、特に肉腫関係のセッションに参加。昨年は、新しい抗がん剤の治験報告がたくさんあったが、今年のセッション数は少なかった。昨年同様、卓上に右下のようなスイッチが用意されていて、参加者に対して、あなたならどのような治療をするのか4つの選択肢から選ぶようなこともしていました。

今年は前述の様にiPlannerから質問できるようになっていて、司会からその内容が発表され、発表者に質問していて、さらに進化していました。

肉腫の局所治療について、日本での発表はほとんど見かけませんが、今回ラジオ波治療についての発表があったことに驚きました。ラジオ波は、標準治療にはないが、日本で私たちが、抗がん剤や手術するには患者に負担がかかりすぎる時などの補助療法として利用していることの正当性が確かめられたことが嬉しかった。



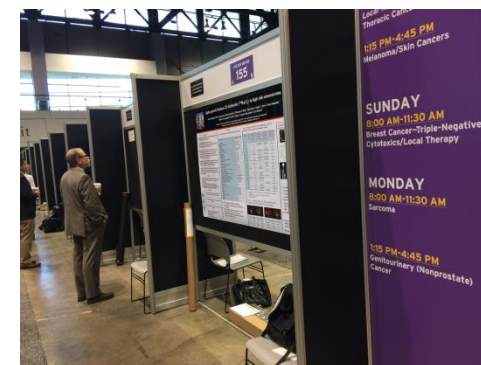
## 展示ホール

製薬企業ブースがエリアを大きくとっていましたが、Patient Advocateブースも30くらい出展していました

また、ポスターセッションは全体の展示数が多く、肉腫だけでも50ものポスターが展示されていました。毎回そうですが、展示時間が半日だけだったので、急いで回らなければなりませんでした。

アメリカの肉腫の患者会もブース出展していて、情報交換ができ、平滑筋肉腫患者だけの患者会とも交流が持て有意義でした。

少し気になるのが、製薬企業あるいはその外郭団体等が、私たち患者会をランチオンセミナー等に勧誘してくる事です。日本では薬事法上、製薬企業と私たち患者が直接接点を持つことを禁じています。今後派遣される方たちのためにも、はっきり私たちのスタンスを決め、渡航前の注意事項として喚起すべきと考えます。





## 質問事項

初めて参加される方から事前に質問を受けた内容を、ここに一部記載させていただきます。

### 1. ASCOの奨学金、資金サポートの申請、承認を得るための方法について

PALで登録すると、メールで入ってきます。2016年度は、4月4日から7日まで受け付け、12日に結果がわかります。2015年は、取得できましたが、2016年は、申請しましたが、応募者多数で取得できませんでした。あまり多くは期待しない方がいいでしょう。

### 2. ホテルについて

HPから登録すると、Patient & AdvocateでもHotel予約できますが、1泊200ドル以上のところばかりだと思います。3月だと、すでにいっぱい、おそらく高いところしか空いていないと思います。今回、私は2年目ということもあり、1月中旬に自分で直接ネットで予約しました。

### 3. 歩きやすい靴とのことでしたが、服装はどうでしたか？

男性はスーツやジャケットに綿パン姿が多かったです。

### 4. プログラムについて

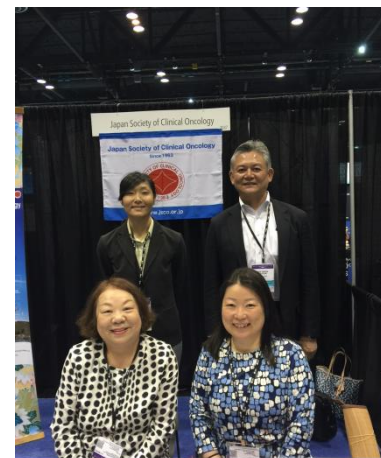
私はサルコーマのプログラムやポスターセッションを狙って、いろいろ出席しました。事前にプログラム内容を読み込むことが大切です。

### 5. PAL ラウンジの活用の仕方

朝はとりあえず、ラウンジに寄りました。ソファが置いてありますし、軽食や飲み物もあるので、空いた時間は結構ラウンジにいました。PAL向けのセッションもやりました。

### 6. PAL の交流に関して

とくに皆で集まって交流のために何かをするというものはありませんでした。ラウンジでは、こちらから積極的に話しかけないと交流できない感じです。



\* 昨年も一緒に参加した加藤さんと今年参加の鈴木(牧)さん、鈴木(貴)さんと日本癌治療学会ブースにて。

## おわりに

日本癌治療学会からの奨学金で、2年連続でASCOに行かせていただき、日本とアメリカの学会やPAL活動の違いなど学ぶことができました。また、肉腫についての多くのセッション参加やポスター展示なども見学させていただき、いくつかの知識や情報を得ることができました。患者会内でも報告し、情報を共有し、今回の派遣経験を意義のあるものにしたと思います。

このプログラムは、今後の私の患者会活動を考えるきっかけになりました。2年連続行ったからといって、ASCOのことが良くわかったわけではなく、ASCOで発表され、議論された、ほんの一部だけ体験したに過ぎません。これを何度も自分自身で体験して、理解して、自分の中で消化して、どういう方向に向かおうとしているか、毎年参加しないと奥深さを理解することは到底難しいでしょう。少し、毎年先生たちがASCOに行く意味が理解できた気がしました。

また、今回のバイデン副大統領のスピーチ(Moonshot Initiative)もすばらしいものでした。皆んなの心を一つの方向に向かわせる言葉の力、これがアメリカだと感じました。アメリカは間違いなく、医療分野において、次のステップに進み、日本との差がまた広がる予感を感じさせられました。

このような学びの機会を与えていただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。

